

令和元年度第3回きのくにコミュニティスクールの推進に係る 研修会（日高会場）

1. 日 時 令和元年9月3日（火） 13時30分～16時30分
2. 場 所 みなべ町生涯学習センター
3. 参加者 学校運営協議会委員 学校関係者 市町村教育委員会担当者等 合計84名

4. ねらいと成果・課題

（1）近隣の実践発表から、「見える化」の有意性について学ぶ

- ・ホワイトボードを活用して全員の意見を文字に残し「見える化」することで、スムーズな会議運営につながることを学んだ。
- ・学校便り、地方紙等を活用して情報発信することで、地域住民において、多くの方々の当事者意識を醸成できることを理解した。
- ・紙面による情報発信が多いことから、今後はホームページ等を活用しながら、幅広い方々に周知できるような進め方が必要である。

（2）「熟議の見える化」によって、きのくにコミュニティスクール活性化のヒントを学ぶ

- ・ワークショップを通じて「熟議の見える化」をすることにより、共通認識を図ることができることを学んだ。また、学校運営協議会等の具体的な活用場面を想起することができた。
- ・学校運営協議会等において熟議をより深めるためには、活発な意見交換ができるような雰囲気づくりや、当事者として考えられるテーマを設定することが重要である。

5. 研修内容 「熟議からはじまるきのくにコミュニティスクール」

◆事例発表（1）

「地域とともにある学校づくり ～地域の“想い”に支えられて～」

日高川町立和佐小学校長 岡本 真美 氏

- ①運営協議会委員を昨年度の13名から今年度は8名にしたことで、1人あたりの発言回数が増えて熟議が活性化した。
- ②学校に関わってくださる地域の方々の写真を校内に掲示したことで、職員や児童が名前と顔を覚えることができた。
- ③「コミュニティ・スクールだより」を発行したことで、教職員の意識改革につながった。
- ④地方紙へ情報提供をしたことで、効果的な情報発信につながった。
- ⑤ホワイトボードを活用したことで、「熟議の見える化」につながった。



◆事例発表（２）

「支援から協働へ ～ゆっくりと変化していくこと～」

上富田町立生馬小学校運営協議会長 福田 勝也 氏

- ①学校運営協議会委員を10名にしぼったり、地域をよく知る地元企業の方を委員に入れたりしたことで、地域の課題解決に向け、より本音で熟議ができるようになった。
- ②「地域とともにある教育課程～地域のたからを学びに生かす6年間～」を作成し、校内と校外の活動を色分けして見える化することで、きのくにコミュニティスクールの活性化につながった。
- ③きのくにコミュニティスクールを活性化させていくことは、「不易」を守ることにつながる。



◆ワークショップ

「フレームワークで熟議を見える化する」

和歌山県立医科大学教育研究開発センター 特別研究員 平野 隆則 氏

- 4人グループでホワイトボードを活用し、「フレームワークで熟議を見える化」するワークショップを行った。参加者全員が交代しながらファシリテーターの体験をした。

(1) オリエンテーション

- ①ワークショップの「ルール」・・・
「アクティブラーニング」を実践しよう
- ②今日の「ゴール」・・・
「熟議を見える化」する体験をする
- ③「ワークショップ」とは・・・
自主的活動方式で行う講習会
- ④「ファシリテーション」とは・・・
知識創造活動を支援し促進していく働き



(2) フレームワークについて（「当日のスライドデータ」参照）

- ①プラスデルタ ポジティブな意見・改善案を設定できる
- ②ツリー もれやダブりを減らすことができる
- ③5W1H 何をすれば良いのかわからず動き出せない人を減らすことができる
- ④KPT 活動を振り返る際に継続すること（Keep）、問題点（Problem）、新たにやってみること（Try）の3つの視点で考えると何をすべきか明確にすることができる



（当日のスライドデータ）

6. 参加者の声（アンケートより）

（1）学校運営協議会委員

- ・CSの広まり、深まりが感じられた。
- ・各地域での取組は、状況に応じた特色があり、さまざまな実践を聞くことができるのは大変参考になる。

（2）学校関係者

- ・少人数なので意見を出しやすかった。
- ・全員がファシリテーターを体験することができ、楽しく参加できた。
- ・可視化することで整理ができ、理解を深めることができた。
- ・見える化（ホワイトボード）によって、参加者同士のつながりができた。
- ・フレームワークを校内研修で活用し、研修を活性化させたい。

（3）市町村教育委員会担当者

- ・フレームワークを通じて、さまざまな体験をすることができ、笑顔になれたので次への意欲につながった。
- ・フレームワークを体験することで見える化の効果と話の深まりを実感できた。
- ・フレームワークを通じて、アクティブラーニングができ、実になる研修となった。

